

川西市のごみ減量のスローガン(合い言葉)

始めよう！
ごみの減量 私から

1人1日 **100g**

川西市

キャラクター紹介
左からエコちゃん、ぶっくりごみくん、スリムちゃん、クリンちゃん、ぶっくりモンスター



レジ袋に替わるエコバッグで もっとおしゃれに買い物に行こう

多くのレジ袋は、一度使われたらごみとして捨てられます。買い物のときにレジ袋や紙袋を断れば、一年間に家庭から出されるごみの約1割を減らすことができるといわれています。

レジ袋に替わるバッグとして、最近はおしゃれなデザインが選べるうえに、素材も綿・再生ペット素材とさまざまなものがあります。お気に入りのマイバッグで環境にやさしい買い物をしてみませんか。もちろん、家にあるレジ袋を繰り返し使うことも環境のことを考えた「レジ袋の再利用」です。

ふるしき 一枚のふるしきが素敵なバッグに FUROSHIKI

ふるしきは、形や大きさを問わずに包める、持ち歩きにかさばらないなど多くの優れた点を持っています。紙袋やレジ袋の替わりにもなるふるしきを見直してみませんか。

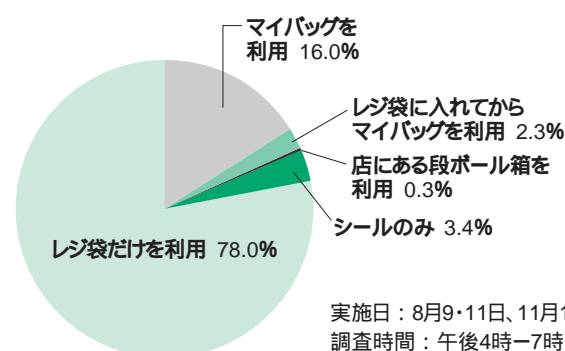


11月12日の「フリーマーケット&リサイクルランド」で開かれた「ふるしき講習会」

マイバッグを使ってレジ袋を断る マイバッグ持参率は16%

～18年度川西市マイバッグ持参率調査～

買い物時のマイバッグ持参率の調査を市内のスーパーマーケット3店舗で行いました。今年の結果は16%でした。毎日の皆さんの行動が大切です。今後も、より一層のご協力をお願いします。



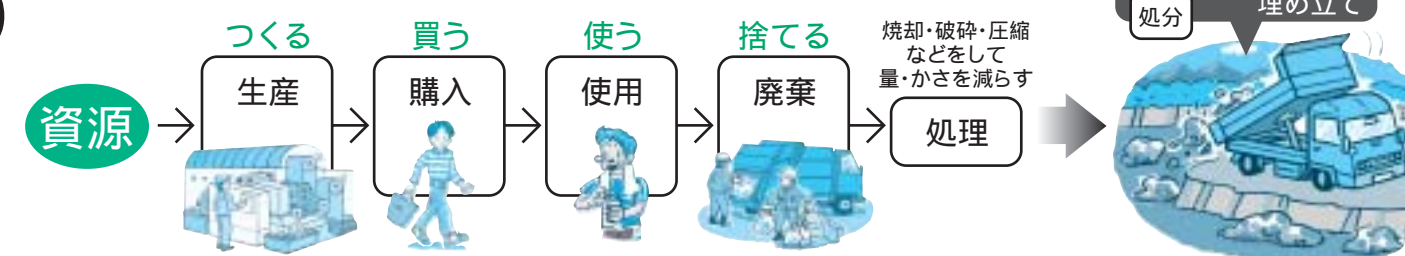
循環型社会をつくらう

ぶっくりごみくん：
地球環境問題っていうけれど…
ぼくたちの生活とどんな関係があるの？

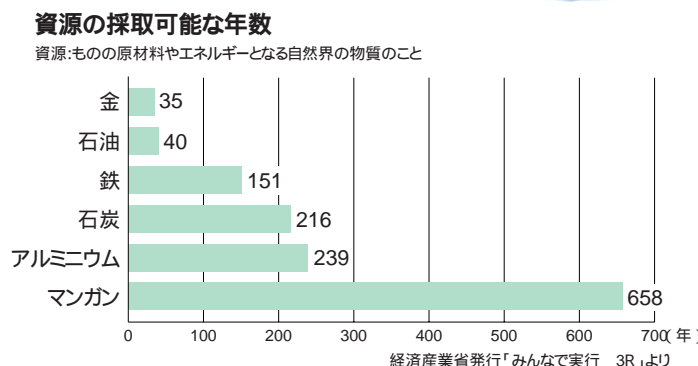
スリムちゃん：私たちが便利で快適な生活を送っているのは、たくさんものを作って、それらを使って、最後はごみとして捨てるといシステムがあるから。でも、この調子でたくさん資源を使っても作ってはごみにする暮らしを続けていたら資源はなくなってしまうわ。ごみを埋める場所も足りなくなっているのよ。

ぶっくりごみくん：それは大変！地球の環境を守るためにはどうすればいいの？
スリムちゃん：毎日出るごみのことを考えたことがある？ごみの問題は地球の資源や環境に密接に関わっているのよ。
ぶっくりごみくん：ごみと地球環境…
スリムちゃん：じゃあ、みんなと一緒に考えてみましょう！

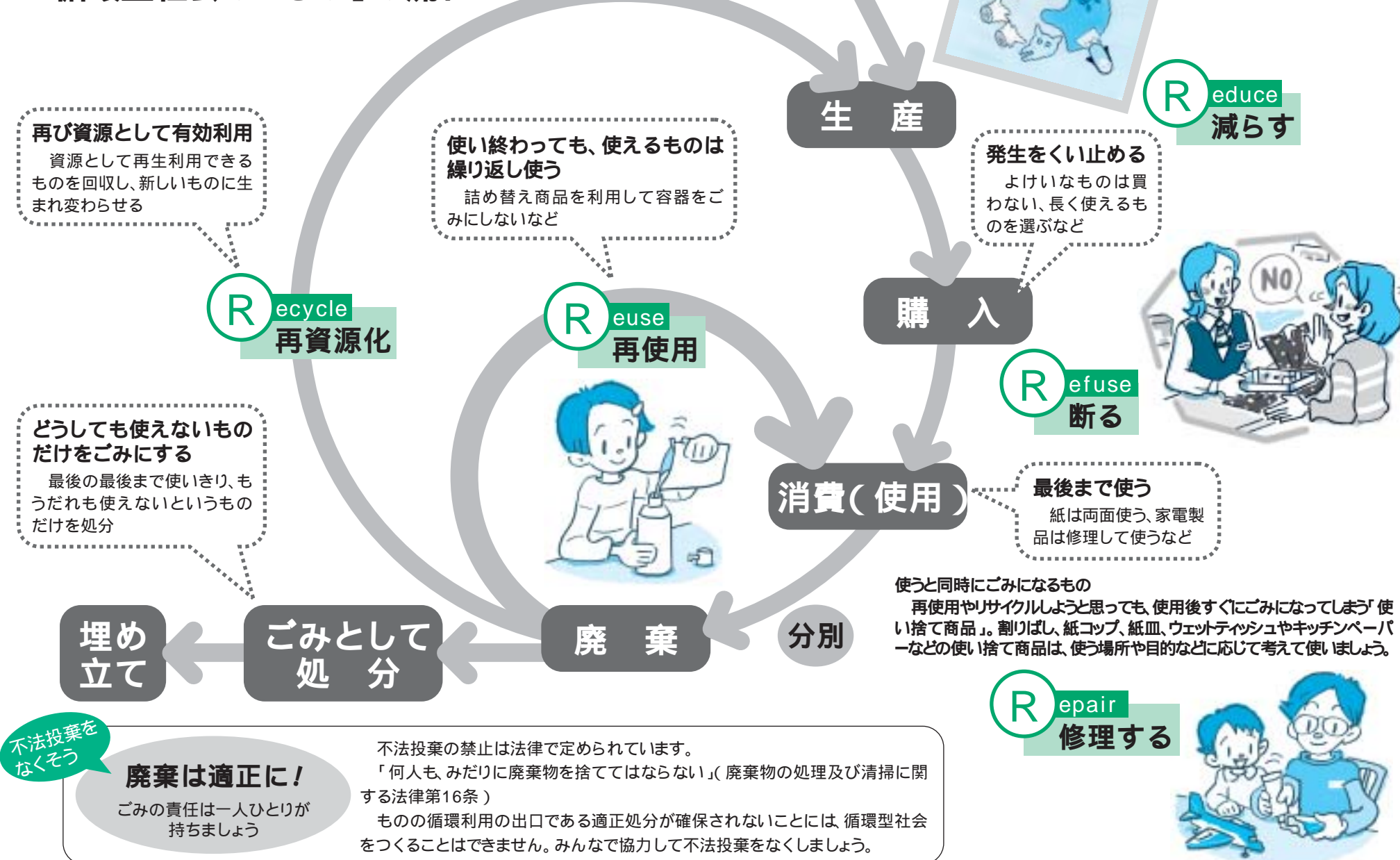
これまでの「使い捨て社会」の「もの」の流れ



ごみはもともと地球の資源から作られたものが、なくなって捨てられたもの。ごみを処分するのにもたくさんのエネルギーが使われています。電気やガス、水などのエネルギーは便利な生活に欠かせません。しかし、エネルギーを使いすぎると大気中の二酸化炭素(CO₂)が増えて地球温暖化が進行してしまいます。そして資源エネルギーには限りがあります。



循環型社会の「もの」の流れ



「循環型社会」の「もの」の流れ

ごみそのものの発生を抑えたり、ごみとして捨てていたものを再利用するなどごみとして処分するものをできるだけ少なくして、できるだけ資源の消費を抑え環境への負荷を減らす社会のことを「循環型社会」といいます。循環型社会のものの流れをみるとごみが資源へと生まれ変わって「環(わ)」のようにぐるぐる回っていくのがわかります。

ごみが資源に戻ってリサイクルされるなら、
今までどおり「もの」をたくさん使っても大丈夫？

リサイクルには新しい資源や費用が必要です。一番大切なのはごみを減らすこと。循環型社会をつくるためのキーワードを「3R」(スリーアール)といっています。

ごみを減らすための3つのR(アール)

1番目のR(アール)はリデュースで、ごみを減らすことです。2番目はリユース。これは使えるものはできる限り使用するという。繰り返し使ったり、別の使い方を考えて最後の最後まで利用しましょう。3番目がリサイクル。リサイクルとはなくなったものを原料に戻して、新しい製品として再び使用することです。まず第一に、ごみを減らす。次に繰り返し使う。そして最後にリサイクル。この順番でごみ減量を心掛けましょう。また、リサイクルしてできた再生品を使うことも、リサイクルの輪をとぎれさせないために大切なことです。さらに、兵庫県ではリフューズ(断る)、リペア(修理する)を加えて「5R」に配慮した生活を推進しています。

作る人や使う人、それぞれの責務

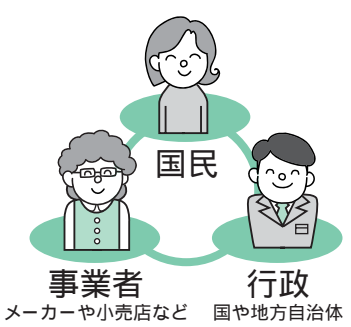
循環型社会形成推進基本法という法律で、行政、事業者そして国民それぞれの責務が規定されています。また、排出者の責任と生産者の責任が明確に位置付けられています。

排出者の責任

ごみを捨てる人みんながそのごみのリサイクルや処分に責任を持つことです。例えば、ごみを出すときに分別すること、事業者がそのごみの処理を自ら行うことなどです。

生産者の責任

ものを作る人や販売する人が、ものがごみになった後で一定の責任を負うことです。例えば、リサイクルや処理がしやすいように材質を工夫したり、ごみになったものの特性に応じてその引き取りやリサイクルを実施することなどです。



リサイクル情報誌「り・ほ・ん」

ベビー用品、家具など譲りたいもの、譲ってほしいものの情報がいっぱい。
毎月15日ごろ発行で、市役所や各公民館、市内のスーパーなどに置いてあります。
市のホームページにも掲載。URLは <http://www.city.kawanishi.hyogo.jp>

登録方法(掲載を希望するとき)
「り・ほ・ん」の裏紙に登録申し込み用紙がついています。市のホームページから印刷することもできます。必要事項を記入のうえ、郵送か持参してください。ファクスも可。登録は川西市民に限りです。

利用方法(情報を見て欲しい、譲りたいものがある)
まず、リサイクル推進課へ電話を。品物の交渉が成立していないか調べます。相手の連絡先を聞いたら、直接電話をして「り・ほ・ん」を見たことを伝えて交渉しましょう。品物の受け渡しが済むと成立です。

まちづくり出前講座 「ごみ学習会」のご案内

リサイクル・アドバイザーがご要望に応じて地域に出向き、ごみ学習会を開きます。
学習会では、年齢や希望に合わせて、紙芝居やスライド、実物ごみなどを使って楽しく学習することができます。
自治会や子ども会、仲良しグループなどで気軽にお申し込みください。
会場 申込者側で用意してください。
申込方法 直接リサイクル推進課へ(電話可)。
日程や内容は相談に応じます。北部処理センターの見学と併せて実施することもできます。

川西北幼稚園の子どもたちが楽しく参加

ぶっくりごみくんやスリムちゃんと一緒にもの大切さやごみについて学びました。
●保護者アンケートから「なるほど!と思いました。明日から心掛けます」「電球はカバーを付けたまま出すことや、カレーやお菓子の箱は古紙類の日に出すなど、知っていたつもりでも分からなかったことがあったので有意義でした」



中山園長先生からひとこと
替え歌や手遊びを交えて指導していただき、楽しい雰囲気の中で子どももおとなも学習することができました。「残さないで食べましょう」「ものを大切に、ごみを分別しましょう」など、生活に必要なこと、大切なことが心に残りました。

